「空飛ぶクルマ」に関するアンケート

＜お客様情報＞

１．事業所所在地

□神戸市　□明石市　□西宮市　□洲本市　□南あわじ市　□淡路市　□その他

２．業種

□製造業　□卸売業　□小売業　□建設業　□不動産業

□サービス業（ □運輸・物流　□宿泊・観光　□医療・福祉　□その他サービス業 ）

３．事業者名（任意）

〔　　〕

＜空飛ぶクルマについて＞

１．「空飛ぶクルマ」を知っていますか。

□よく知っている　□なんとなく知っている

□聞いたことがあるがよく知らない　□まったく知らない

２．「空飛ぶクルマ」のことをもっと知りたいですか。

□もっと知りたい　□できれば知りたい　□どちらとも言えない

□あまり知りたくない　□知りたくない

３．神戸・淡路地域で「空飛ぶクルマ」が利活用されてほしいと思いますか。

□思う　□どちらともいえない　□思わない

４．空飛ぶクルマが実用化された場合、地域にどんな影響があると思いますか。（複数回答可）

□観光の活性化　□物流の効率化　□災害対応の迅速化　□生活利便性の向上

□新しい雇用の創出　□人口流動の活性化　□医療機能の強化　□影響はあまりない

□その他（自由記述：　　）

５．「空飛ぶクルマ」が実用化された場合、自社の業務（新たなビジネスチャンス含む）に関係がありそうですか。

□直接関係する　□間接的に関係する　□あまり関係しない　□まったく関係しない

この質問は、５．の質問で「直接関係する」または「間接的に関係する」と回答した方のみ

６．どのような分野で可能性を感じますか。（複数回答可）

□人の移動（自社向け：出張や営業など）　□人の移動（顧客向け：旅行・通院など）

□物資・部品・製品などの輸送　□災害時や緊急時の代替輸送手段

□新たなサービス提供（観光・体験・視察など）

□機体・部品などの製造・メンテナンス　□運航・運行管理・保険などの分野

□ポート（離着陸場）整備や管理　□ポート用地の貸出、仲介などの分野

□データ・通信・ソフトウェアなどの分野　□専門人材の育成・紹介・派遣などの人材分野

□その他（自由記述：　　）

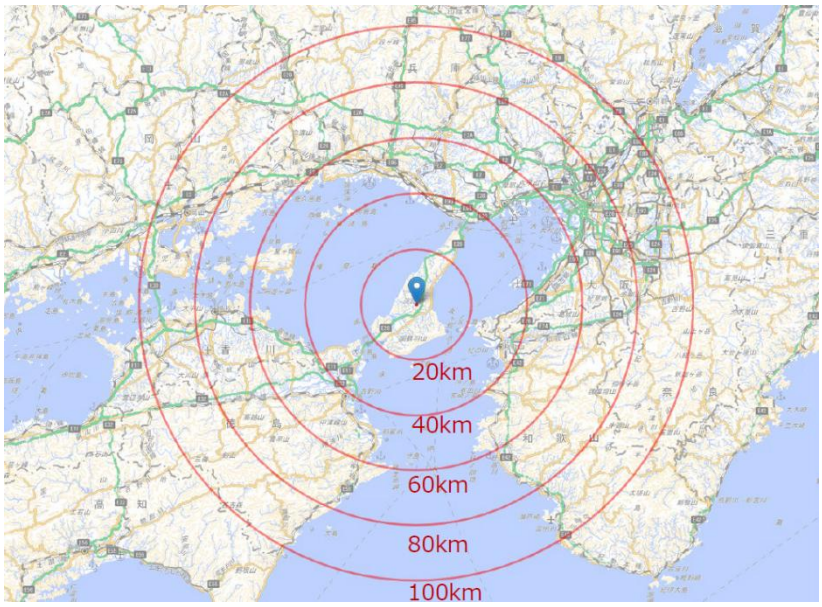
【質問は裏面に続きます】

この質問は、５．の質問で「直接関係する」または「間接的に関係する」と回答した方のみ

７．出発地から目的地までの距離は、どの範囲で使用すると想定されますか。（複数回答可）

□１０ｋｍ未満　　□１０ｋｍ以上３０ｋｍ未満　　□３０ｋｍ以上５０ｋｍ未満

□５０ｋｍ以上１００ｋｍ未満　　□１００ｋｍ以上



（画像の円部分は淡路島中央を起点とした 20、40、60、80、100km の同心円）

８．本アンケートの下記参考情報の利用料金（５００円／ｋｍ・席）をどう感じますか。

□かなり高い　　□やや高い　　□普通　　□やや安い　　□かなり安い

参考情報：利用料金（５００円／ｋｍ・席）、時速２００ｋｍ／ｈの場合

区間	利用料金	移動距離	所要時間
洲本–神戸空港	２２，５００円	約４５ｋｍ	約１４分
洲本–関西空港	１６，５００円	約３３ｋｍ	約１０分
洲本 － 大阪城	３５，０００円	約７０ｋｍ	約２１分
洲本–徳島空港	１６，５００円	約３３ｋｍ	約１０分

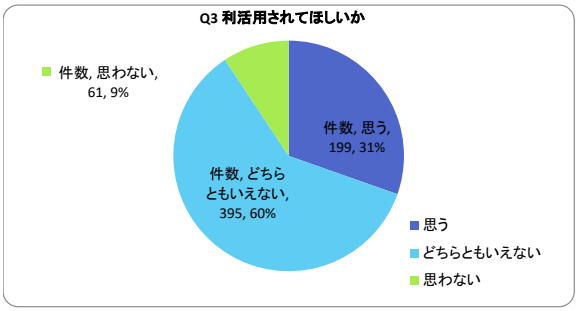
※記載の内容は、参考情報としてまとめたものです。数値・性能・時期・利用料金等については確定したものではなく、実際の事業・技術内容を保証するものではありません。

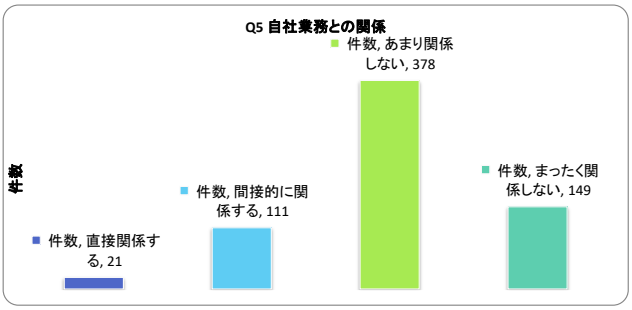
９．空飛ぶクルマに関して意見があれば自由にお書きください。

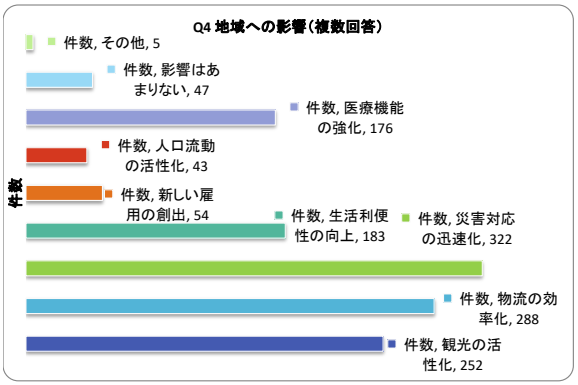
アンケートは以上です。ご協力頂き、誠にありがとうございました。

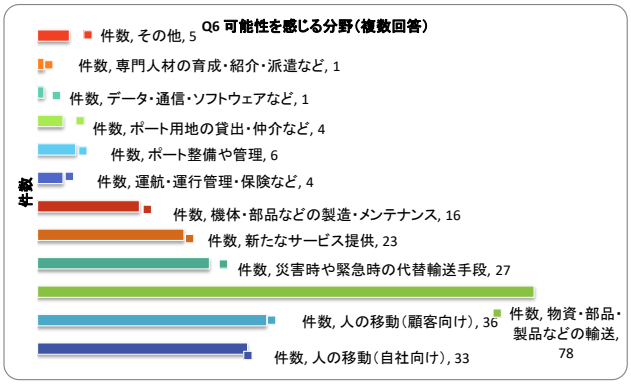
アンケート結果ダッシュボード

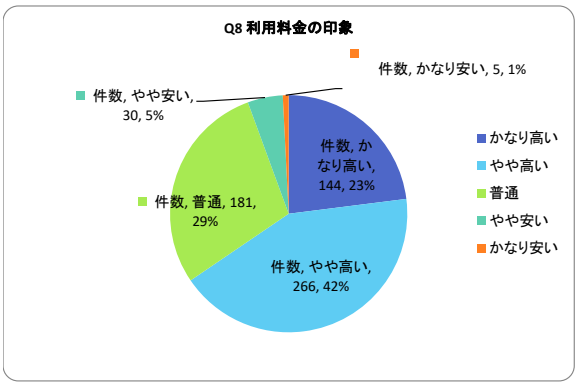
入力済回答数	Q3 利活用「思う」	Q5 関係あり	Q8「高い」
662	199	132	410

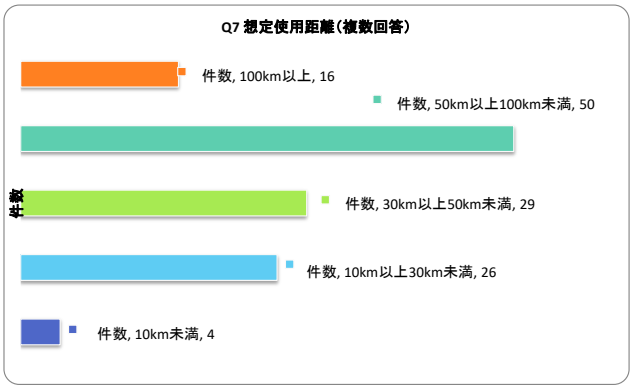












※Q4は全回答者に対する回答者比率、Q6・Q7はQ5で「直接関係する」「間接的に関係する」と回答した方を母数として集計しています。

「空飛ぶクルマ」に関する事業者アンケート

分析報告 ― 神戸・淡路地域における認知・期待・事業可能性 ―

作成：淡路信用金庫 本部 総合企画部　　2026 年 10 月

回収数	分析対象	淡路 3 市	神戸・西宮・明石
662 部	662 件	381 件	271 件

注：回収 662 部を分析対象とした。地域比較では「その他」10 件を除外。

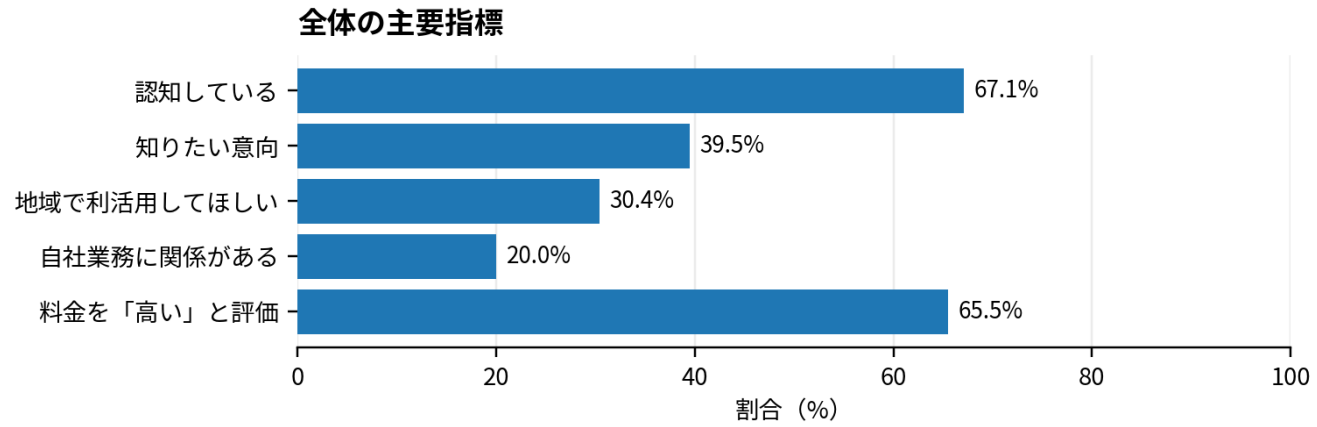
分析結果の要約

1. 認知は進むが、態度は未形成。 認知率は 67.1%である一方、利活用を望む回答は 30.4%。「どちらともいえない」が 60.3%を占め、具体的な用途・安全性・料金の情報提供で評価が動く余地が大きい。

2. 期待は公共性の高い用途が先行。 地域への影響は「災害対応」49.2%、「物流効率化」44.0%、「観光活性化」38.5%の順。自社業務に関係がある層では、61.4%が物資輸送に可能性を見いだした。

3. 淡路地域は観光期待と価格感度が高い。 淡路 3 市は都市 3 市より認知率が 9.6 ポイント、観光活性化への期待が 10.5 ポイント高い。一方、料金を高いとする割合も 8.8 ポイント高い。

4. 洲本市は「関係性」と「価格」が同時に強い。 利活用意向は 25.0%と全体を下回るが、自社業務との関係は 24.8%と全体を上回る。料金を高いとする割合は 80.0%で、実証は物流・緊急輸送等の明確な便益から始める必要がある。

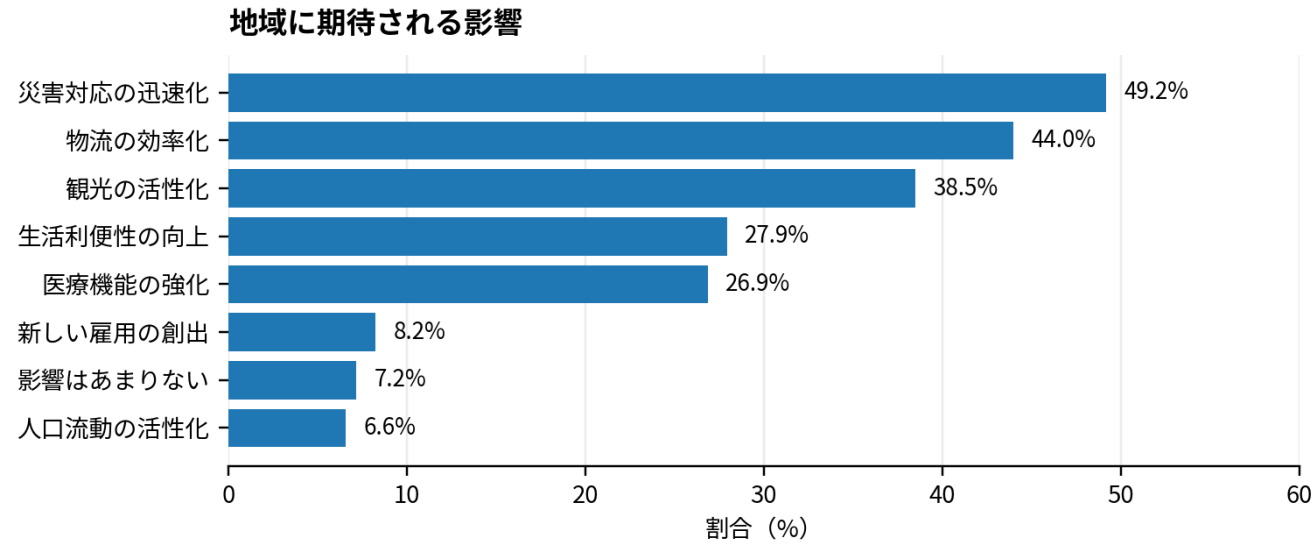


注：設問ごとに無回答を除外。料金は「500円／km・席」の参考条件に対する評価。

図 1　全体の主要指標（各設問の有効回答を分母）

1 全体の分析結果

回答事業者の認知は一定程度進んでいるものの、導入・利活用への評価はまだ固まっていない。Q2 では「どちらとも言えない」が 53.7%、Q3 では「どちらともいえない」が 60.3%であり、賛否が決まる前段階にある。



複数回答、n=655

図 2　実用化によって地域に生じると考える影響（複数回答、n=655）

事業との接点・想定距離

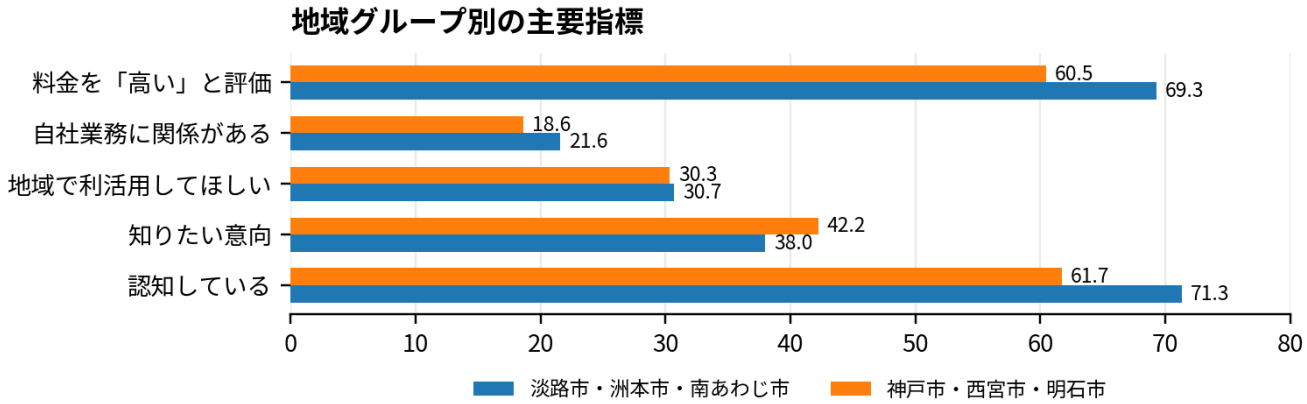
事業可能性（Q6）	割合	想定距離（Q7）	割合
物資・部品・製品等の輸送	**61.4%**	50〜100km	**41.7%**
人の移動（顧客向け）	**28.3%**	30〜50km	**23.3%**
人の移動（自社向け）	**26.0%**	10〜30km	**20.8%**

Q6 は Q5 で「直接関係する」または「間接的に関係する」とした 132 件のうち有効回答 127 件、Q7 は有効回答 120 件。Q6 では物資輸送が突出し、Q7 では 50〜100km が最多である。短距離の日常移動より、都市・空港・拠点間を結ぶ中距離用途を想定する傾向がみられる。

全体所見　空飛ぶクルマへの期待は「観光」だけでなく、災害・物流・医療等の地域課題解決に広がっている。一方、自社業務との関係がある回答は 20.0%にとどまり、公共的便益から具体的な事業モデルへ橋渡しする検討が必要である。

2 淡路 3 市と神戸・西宮・明石の比較

淡路市・洲本市・南あわじ市（淡路 3 市）と、神戸市・西宮市・明石市（都市 3 市）を比較した。利活用意向はほぼ同水準であるが、認知、期待する用途、価格評価には地域差がある。



注：設問ごとに無回答を除外。淡路3市 n=381、神戸・西宮・明石 n=271。

図 3　地域グループ別の主要指標

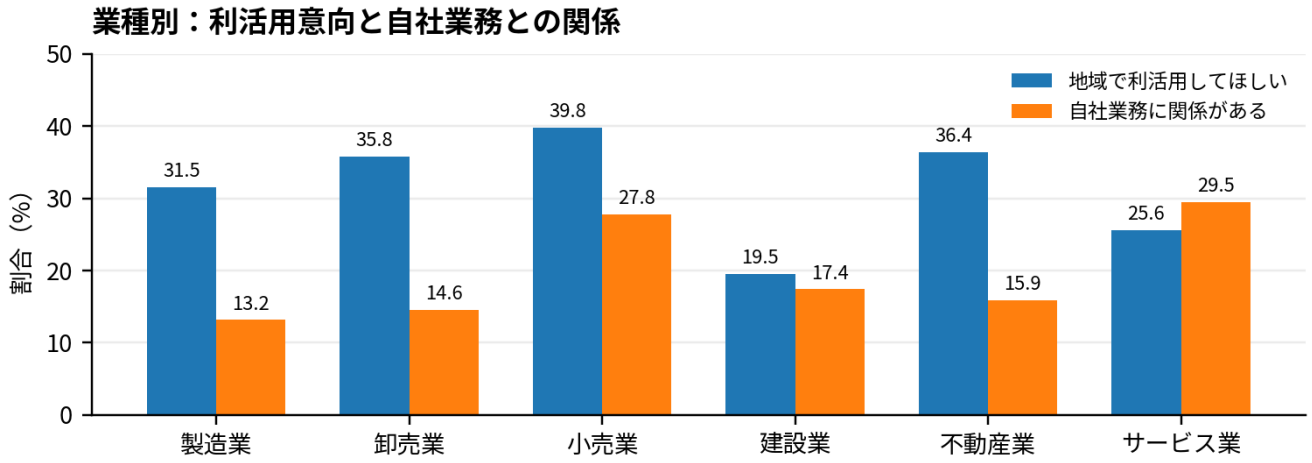
比較項目	淡路 3 市	都市 3 市	差（淡路－都市）
観光の活性化（Q4）	43.0%	32.5%	**+10.5pt**
物流の効率化（Q4）	42.4%	46.3%	-3.9pt
人の移動・顧客向け（Q6）	33.8%	19.1%	**+14.7pt**
災害・緊急時の代替輸送（Q6）	25.0%	14.9%	**+10.1pt**
50〜100km の利用想定（Q7）	45.5%	34.9%	**+10.6pt**

- **共通点：**利活用を「思う」は淡路 3 市 30.7%、都市 3 市 30.3%でほぼ同じ。災害対応も 49.9%対 48.1%で、公共的用途への期待は地域共通である。
- **淡路地域の特徴：**認知率は 71.3%で都市 3 市より高く、観光活性化への期待も 43.0%と高い。顧客向け移動や災害時輸送への事業可能性も相対的に強い。
- **留意点：**料金を高いとする割合は淡路 3 市 69.3%、都市 3 市 60.5%。淡路地域では便益の説明に加え、支払可能性を踏まえた料金・運行方式の設計が重要となる。

注：Q4、Q6、Q7 は複数回答。Q6・Q7 は「自社業務に関係がある」と回答した層を対象としており、母数が小さいため方向性を示す参考値として扱う。

3 業種ごとの特徴

業種別では、利活用意向と自社業務との関係に差がみられる。特に、小売業は地域での利活用意向が高く、サービス業は自社業務との関係を見いだす割合が高い。



注：無回答を除外。業種別の回答数は44〜152件であり、小規模区分は参考値。

図 4　業種別の利活用意向と自社業務との関係

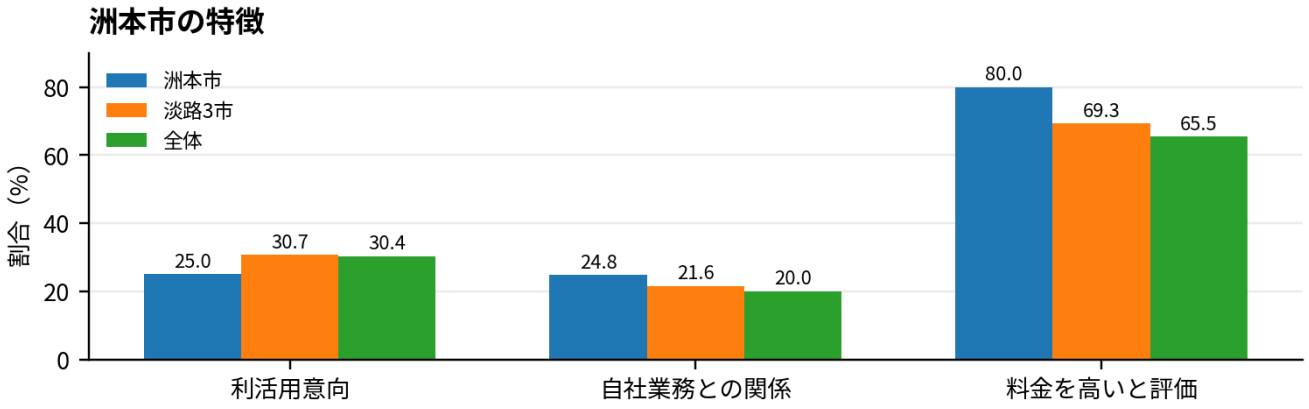
業種（n）	利活用意向	業務との関係	主な特徴
製造業（152）	31.5%	13.2%	業務との関係は 13.2%と低め。ただし関係あり層では、物資輸送 80.0%、製造・メンテナンス 30.0%と供給面の可能性が明確。
卸売業（97）	35.8%	14.6%	知りたい意向（「もっと知りたい」＋「できれば知りたい」）は 46.4%で業種中最高。関係あり層の 85.7%が物資輸送を選択し、中距離物流との親和性が高い。
小売業（108）	39.8%	27.8%	利活用意向 39.8%で業種中最高、業務との関係 27.8%。物流に加え、顧客移動や買物支援への展開余地がある。
建設業（133）	19.5%	17.4%	利活用意向 19.5%で最も低い一方、災害対応への期待は 51.9%。一般利用より防災・インフラ用途の説明が有効。
不動産業（44）	36.4%	15.9%	生活利便性、物流、災害対応が各 47.7%。回答数 44 件のため慎重な解釈が必要だが、拠点立地・地域価値との接点がある。
サービス業（122）	25.6%	29.5%	業務との関係 29.5%で業種中最高。関係あり層では新サービス 30.3%、顧客向け移動 27.3%が相対的に高い。

業種別には一律の訴求を行うのではなく、製造・卸売には物流・保守、小売には配送・顧客移動、建設には防災・インフラ、サービスには観光・体験・移動サービスというように、具体的なユースケースを分けて提示することが望ましい。

注：業種未回答 6 件を除く。Q6 の業種別集計は「関係あり」回答に限定され、業種によって有効回答数が 7〜33 件と少ないため、構成比は参考値。

4 洲本市における将来性と課題

洲本市は、利活用への積極姿勢は全体より弱い一方、自社業務との接点は相対的に強い。高い料金感と安全面への懸念を乗り越え、公共性が高く需要を説明しやすい用途から段階的に検証することが重要である。



注：設問ごとに無回答を除外。洲本市 n=117。

図 5　洲本市の主要指標と比較

自由記述 25 件では、安全性・法制度、既存のヘリコプターとの違い、公共用途、税負担・価格に関する意見が繰り返しみられた。数は限定的だが、実証時の説明項目を示す材料となる。

将来性

- 物流・緊急輸送：地域影響は災害対応 48.7%、物流 44.4%。関係あり層の 62.1%が物資輸送に可能性。
- 中距離回廊：想定距離は 50〜100km が 57.1%。30〜100km では計 67.9%となり、島外拠点との接続需要が中心。
- 地域事業者の参画：業務との関係 24.8%は全体 20.0%を上回り、物流・観光・保守等の事業化候補を探索できる。

主な課題

- 価格受容性：500 円／km・席を高いとする回答が 80.0%。定期便・共同利用・公的用途等を含む料金設計が必要。
- 安全性・社会受容：利活用意向 25.0%に対し中立 69.0%。安全基準、運航条件、騒音、事故時対応を分かりやすく示す必要。
- 事業基盤：ポート、運航管理、通信、人材等への回答は少なく、地域内の供給体制・制度・採算性は未形成。

今後の検討方向

1	2	3	4
情報提供	**需要検証**	**限定実証**	**事業化判断**
安全・料金・輸送力を既存手段と比較	物流・災害・医療等の具体案件を抽出	30〜100km の候補ルートで効果測定	採算・制度・ポート・地域参画を評価

結論：洲本市では、空飛ぶクルマを直ちに一般交通として捉えるより、災害・物流・医療等の社会的便益を明確にした限定的な実証から始め、価格受容性と安全性への理解を高めながら需要を確認する進め方が妥当である。行政、事業者、地域企業、金融機関が役割を分担し、地域内に残る経済効果まで検証することが将来性を左右する。

集計上の留意点：本調査は取引先等の事業者アンケートであり、住民全体の意向を直接示すものではない。設問ごとに無回答を除外し、複数回答は合計が 100%を超える。Q6・Q7 は Q5 で関係ありと回答した 132 件を対象とし、条件外入力 3 件は集計から除外した。結果は将来の事業性を保証するものではなく、実証・制度・採算性の検討が別途必要である。

出所：淡路信用金庫「空飛ぶクルマ」に関するアンケート（2026 年）